編集後記・Editorials

魚類学雑誌 57(2): 192
2010年11月5日発行

魚類学雑誌57巻2号をお届けします．本論文5本，短報5本の合計10本の構成です．57巻全体では掲載論文数は19本となりました．最近は魚類学雑誌への論文投稿数も年に20本を越えており，51巻以降，総ページ数が200ページをたびたび越えています．魚類学雑誌が学会員の皆さまの情報発信の場として活発に利用されることは，編集にたずさわるものとして喜ばしいかぎりです．

今年の夏は異常な暑さでした．私の住む岐阜県には暑さで有名な某市があり，連日のように最高気温を群馬県の某市などと競っていました．結局，今年の最高気温は9月に入ってから京都府の某市に持って行かれたようですが…．異常な暑さも9月半ばにはややおさまり，三重県津市での魚類学会年会の開催とともに，急に涼しく秋らしい気候になりました．それとは裏腹に，年会の会期中は毎夜の酒盛りで白熱していましたが…．年会から戻るとまた本誌の校正作業に追われる日々．それでも目前にせまる講義開始までの1週間ほどは，少しゆったりと過ごしつつ，この編集後記を書いています．

57巻の編集にあたり，下記の方々に原稿の校閲でご尽力いただきました．記してお礼いたします（敬称略）．

池田　実（3），石黒直哉，今村　央，上原一彦（2），遠藤広光（3），大原健一，鬼倉徳雄（2），片野　修，河合典彦，河村功一，北川大二，北川忠生（3），亀甲武志，久保田仁志，後藤　晃，小西　蘭（2），古屋康則（6），斉藤憲治（2），酒井治巳，坂本一男，佐々木邦夫（9），佐土哲也，篠原現人（2），渋川浩一（2），清水孝昭，鈴木寿之，瀬能　宏，高橋　洋，波戸岡清峰（2），早川洋一（2），林　公義，樋口正仁，藤田朝彦，益田玲爾，松浦啓一，松崎慎一郎，松沼瑞樹，本村浩之，森　誠一，森田健太郎，宮　正樹，向井貴彦（5），山野上祐介，淀　大我（2），渡辺勝敏（3）．